

＜今日の説教のポイント ヨハネによる福音書 20 章 24～29 節＞

1 主イエスを信じているトマスが、主の復活を信じられなかったとは？

この出来事から考えるべきことは何でしょうか？ トマスはすでにイエス様を信じて 12 弟子のひとりとなっており (24)、主のためなら死ぬると思うほど熱心な弟子でした (11:16)。そのトマスが主が復活されたことをなかなか信じられなかったのです。ですからここではまず、主イエスを信じるということではなく、主の復活を信じることを問題としなければなりません。この出来事がなければ考えることもない、主の復活が私たちにとって持つ意味です。

2 復活を信じるなんて信じられない？ 否、そこに信じる理由あり！

復活された主が戸が閉まっているのに入って来られた記事 (20:26, 19) は不思議で、普通に考えれば信じられませんが、復活自体がそういう出来事ですね。つまり、これは創造主なる全能の神様が起こされたのであり、そのことから理解する時に初めて受けとめられる出来事なのです。神様はこの出来事よって第 2 の創造の出来事 (復活＝死を打ち破る出来事、新生) を起こされたのであり、弟子たちはそのような出来事に会ったのですから、うろたえるのは当然なのです。不信仰な発言をしているように見えるトマスも他の弟子たちと同じように復活の主を見て信じたのですから、彼らと違いはありません。私たちはこれを読んで、「だから私も見たら信じる」と言ってはなりません。ここで大事なことは、見つめるべきは見て信じた人間ではなく復活された方であり、その方が言われること、「信じる者になりなさい」 (27) に耳を傾けることです。そしてトマスは一番大事なことを誰よりも早く、深く悟ったのです、復活の主に向かって「私の主よ、私の神よ」と叫んだからです (28)。この福音書を書いたヨハネも、そのことを伝えたかったのです (30-31)。

3 主の復活が持つ意味は深い。信じるに足る大きな恵みを見出せれば。

主イエスが復活されたことは、まず第一に、私たちの罪 (イエス様を十字架に架けて殺したのは私たちの代表!) を神様が赦して下さったことを意味しています。そしてそれは、私たちがこの隣れみに満ちた神様を信じて従って歩めばいいのだという恵みの内容につながるのです。主の復活を信じることは、主を信じることと深くかかわっているのです。